

日本気象学会第21期役員選挙立候補者の略歴および所信

1. 理事

〔関東地区〕(定数13名)

氏名 生年月日 卒業年次

村山信彦 昭, 3. 6. 30 昭, 27 京大卒

所信: 歴史が古くしかも常に新鮮な気風に溢れるわが日本気象学会の発展のため、役員として微力を尽したい。「80年代の気象学」の進歩と堅実な気象事業への反映のふたつを念頭において、学会の運営と活動に参画したい。このため当学会の長期計画委員会・気象研究ノート編集委員会(3期)委員・支部地方理事などの経験を役立てたいと思います。

浅井雷雄 昭, 7. 9. 15 昭, 30 京大卒

所信: 我が国の気象学・大気科学をますます発展させるために、

- (1) 国内の関連他分野や諸外国との交流を盛んにする。
- (2) 教育・研究機関、気象官署、地方自治体の関係機関などでの教育・研究・調査活動をもりたてる。
- (3) 天気、集誌、ノートなどの機関誌を一層充実することなどに努力する。

荒井康大, 14. 1. 5 昭, 24 養研卒

所信: 特に抱負はありませんが、学会の発展を願う会員の一人として少しでもお役に立ちたい、ということ、学会の運営上、在京の理事が何名か必要である、ということで立候補しました。よろしくお願いたします。

岸保勤三郎 大, 13. 1. 5 昭, 20 東大卒

所信: 理事を二期務めさせて頂いたので、今回はひと休み、と思っていたのですが、再び理事選挙の立候補推薦をうけることになりました。

ひと昔前とはちがって、これからの学会活動では、身近な環境に関する研究分野から、長期的な展望が要請される気候の研究分野まで、多種多様な研究が期待されています。また1980年代には国際協力事業として中層大気観測計画(MAP)、世界気候研究プログラム(WCRP)などが考えられています。このような現状を考えますと、若い研究者の活躍を特に期待したいところです。立候補にあたって学会の活動がそのためにお役に立てばと思う次第です。

小平信彦 大, 8. 4. 9 昭, 16 東大卒

所信: 気象学会は1982年に創立100周年を迎えることとなります。この記念として、記念論文集の発刊、75年史以降の学会史の刊行、国際的著名な学者による記念講演会などを計画しております。

具体的な方法等は第21期の事業となりますが、20期における実行委員に引続いてこれらの事業を担当し、意義あるものになりたいと考えております。

杉村行勇 昭, 6. 12. 30 昭, 35 都立大院卒

所信: 気象学会の発展のため、関連学会(日本地球化学会、日本海洋学会)の役員としての活動の経験を生かし、会員の皆様のお役に立ちたいと思います。

増田善信 大, 12. 9. 11 昭, 24 養研卒

所信: 常任理事として講演企画を担当し、最近の講演希望者の激増で、プログラム編成に嬉しい悲鳴をあげていますが、その反面、気象庁関係、特に地方の気象官署の人の発表が年々へっていくのを淋しく思います。学会をささえているこの人達をもっと調査研究が出来、その成果を気楽に発表できるような体制を作るために微力をつくします。

また、日本学術会議会員として学術会議と学会の緊密化のため、総会報告などを行ってきましたが、今後一層それをつよめ、学会の要望を学術会議に反映させます。今春も日本科学者会議気象研分会の方々と協力して、学術会議有権者登録を推進しましたが、さらに有権者をふやす運動を進め、学術会議を真に日本の科学者、技術者を代表する機関にしたいと思います。

二宮洸三 昭, 10. 8. 1 昭, 33 東大卒

所信: 私は第17、18期にも常任理事として気象学会に協力してきました。今回尊敬する知友のかたがたの推薦をいただき、21期の理事に立候補しました。気象学会は気象学・技術に興味を持ち、その発展を願う人々の集りです。気象学の発展には自由闊達な発想と実質的な討論が必要です。それらは無気力の大勢順応、形式主義、カリスマの権威とは相いれないものです。気象学の発展は気象事業の発展にも不可欠です。

最近の学会活動には上記したような発想と討論が不足し、やや精気を欠くように思われます。今回もし会員の支持により理事となりましたならば、学会誌・講演企画・教育普及などの任務分担のなかで、自由闊達な空気と実質的な討論を盛り上げるべく努力いたしたく

思います。会員の皆様がこの主張に共感され、かつ御支持くださることをお願い致します。

黒木 義秋 大, 12.11.7 昭, 19 養本卒

所信：私は今回尊敬するかたがたの推薦をいただき、21期の理事に立候補しました。長い間予報業務の現場で働いてきた体験を、気象学会の活動に反映させることが私の願いでございます。

松本 誠一 大, 11.12.6 昭, 20 東大卒

所信：気象学の発展と気象業務の発展は密接不可分の関係にあります。近年大量の情報取得とその処理が可能になっていますが、このことが気象学の一段の進歩を促しており、ひいては気象業務の基盤を固めることに役立たねばならないと考えています。

竹内 清秀 大, 13.12.5 昭, 22 東大卒

所信：この3月まで福岡におりましたが、地区相互間の情報交換の必要なことを身にしみて感じました。地方の現場では、ナマの資料を多く抱えながら処理に苦しんでいる熱心な会員がいます。一方では高度の知識と処理能力を持ちながら資料不足のため乾いた結果しか出せない場合も多いのではないかと思います。両者を同じ輪の中に入れて十分話し合えるようにしたいものです。

そのために、グループ活動、グループ相互の共同活動、教育普及などの活動が大切です。

河村 武 昭, 4.12.30 昭, 28 東教大卒

所信：これまで天気編集、教育と普及担当理事を2期ずつとめた。この間に私自身の勤務先が、気象庁、気象研究所、大学と変り、また仕事の上で地方自治体など多方面の会員の方々と接してきた。気象業務の現場から研究・教育と広範囲の経験を生かして、これまで、学会活動が広い会員層に役立つよう努力をしてきたが、今後も一層の努力をしたいと考えている。

内田 英治 大, 15.10.1 昭, 24 東大卒

所信：次のような諸問題について微力をつくしたいと考えています。よろしく願いいたします。

- (1) 学会100年記念行事が実質的に学会員にとって中央にも地方にも本当に爽りのあるように計画すること。
- (2) 学会活動を内実的に充実するために機関誌の一層の奥深さ、幅、広さを考え、とくに学際領域（とくに気候変動など）に慎重かつ積極的に浸透をはかること。

(3) WCP, WCRP, MAPなどの国際事業協力の進展とPRにつとめること。

(4) データの取扱い問題の考案、応用分野の発展、気象庁の現場の中の諸問題をさらに深く討論し学会に反映させてゆくこと。

〔北海道地区〕(定数2名)

菊地 勝弘 昭, 9.7.14 昭, 34 北大院卒

所信：日本気象学会が、もっと身近かに会員のうちにあるような雰囲気作りに心がけたい。そのためには、先づ、地方にあって、地道に研究に取り組んでいる人達にできるだけ協力し、支部の研究発表会をさらに活発なものにしたい。また学会機関紙「天気」をいま以上に話題の多い楽しいものにしたいと思います。

藤原 滋水 大, 12.6.12 昭, 22 北大卒

所信：このたび安井さん矢崎さんはじめ北海道地区の気象学会の役員の方々のお勧めに従いまして、学会理事に立候補いたすこととなりました。これまで学会の仕事には全く関係したことなく、他に適任者がおられるのではないかと辞退したい気持ちでいっぱいでしたが、皆様の強いお勧めに結局従うこととなりました。

私はこれまで多くの仕事の裏方としてお手伝いをすることが大好きで、舞台の上立つのは自分の任ではないと考えて参りました。従ってこれからも学会の運営につきましては同様な生き方をしていきたいと思っております。学会も百年記念行事をひかえこれから忙しい時期に入ることでしょう。多少事務能力はあり、英会話や英文書簡などの面でお役に立てばと思っております。

また幸いにも私の同期生が北大に大ぜいおられますので、何かとお世話になることと思います。どうかよろしく願い申し上げます。

〔東北地区〕(定数2名)

伊藤 宏 大, 11.4.2 昭, 20 東大卒

所信：地方に於ける気象学の進歩と、それに伴う気象技術の発展のために、できるだけ努力をしたいと考えております。

田中正之 昭, 10.4.15 昭, 36 北大院卒

所信：特に次の点に微力を尽したいと考えております。

1. 中層大気国際協同観測 (MAP), 世界気候研究計画 (WCRP) などの国際協力事業の推進。
2. 気象・気候データや観測用航空機などの大型研究手段の共同利用体制の整備。

〔中部地区〕(定数2名)

武田 喬男 昭, 11. 10. 31 昭, 35 東大卒

所信: 近年は、気象学の分野でも、大型の観測器機が増し、大規模な観測計画がくまれ、また、膨大なデータの処理・解析が行われる等、大型の研究が盛んに行われるようになりました。このような研究が重要であるのは勿論ですが、気象学の発展には、規模が小さくとも、基礎的な実験、地方での地味な観測・解析、あるいは新しい観測技術・測定技術の開発等もまた重要であると思います。気象学会がそのような活動にも常に気を配ることが出来、また、正当な評価をくださることが出来るように、学会活動に貢献したいと思います。

鍋島 泰夫 大, 13. 5. 28 昭, 22 東大卒

所信: 応用や実用にも、明確な基本の裏づけが、ますます必要になって来たのではないでしょう。

このような方面にでも微力を尽したいと思っています。

〔関西地区〕(定数4名)

中島 暢太郎 大, 11. 4. 28 昭, 21 京大卒

所信: 私は災害気候学を専攻しています。防災科学は災害の原因となる現象の理学的研究だけでなく、被災側の住民の生活環境、地域の地形などをその歴史的变化も含めて理解するものでなければなりません。このような学際的領域の発展に努力したいと思います。

山元 龍三郎 昭, 2. 5. 23 昭, 26 京大卒

所信:

1. 地方での支部活動を一層活発にするように努力したい。
2. 気候変動の研究を推進し、気象学・大気物理学の研究を充実するのに努力したい。

藤 範 晃 雄 大, 11. 1. 19 昭, 20 京大卒

所信: 学会運営が円滑に行われるよう、関係各機関の連絡調整に努力したい。

伊 藤 昭 三 昭, 3. 12. 19 昭, 31 理大卒

所信: 気象科学の益々の前進を考えて、学会活動の発展。

〔九州地区〕(定数3名)

坂 上 務 大, 10. 11. 1 昭, 20 九大卒

所信: 気象学会は急速に発展しつつありそのためには気象学の研究体制の強化がまず必要と思われます。

また気象学会を構成する会員のニーズにこたえるため、関連分野との連絡と研究体制の強化、及び各支部の活動の強化を今以上に努力したいと思います。

沢 田 竜 吉 大, 6. 1. 10 昭, 29 ニューヨーク大院卒

所信: 役員の仕事は学会の正常な発展のための奉仕であると考えています。学会の主体はあくまで研究者・教育者および技術者等の会員であり、これらの方々の研究・教育活動の場としての学会を快適な状態に維持・改善する責任があります。どのような状態が正常であり、快適であるかの判断は全会員の総意に問うのが筋ですが、日常的には理事会の判断で選択が行われることとなります。理事の選出が日常の雑務処理以外の、学会の将来に意外に重要なかわりを持つ可能性がありそうで、立候補に重い責任を感じています。

関 口 理 郎 大, 15. 6. 25 昭, 28 東大卒

所信: 学会活動から離れて数年、再びお手伝いをとということです。初心に帰って、支部活動の推進、パランスの取れた学会の運営などに微力を捧げたいと思います。

〔沖縄地区〕(定数1名)

森 安 茂 雄 大, 12. 9. 9 昭, 20 東大卒

所信: なし

2. 監 事 (定数2名)

当 舎 万 寿 夫 大, 13. 3. 14 昭, 25 養研卒

所信: 世界的規模となった経済不安とインフレーションの打開のために軍備拡張の競争が起りつつあります。諸物価の急騰にともない、気象学会の運営にもきびしい数多くの問題が出てきそうです。この危機をのりこえるには学会の敗政確立を必要とします。そのためには会計監査のみならず、学会活動全般を定款にしたがい運営していかなければなりません。

気象学が世界人類の幸福増進に発展していくには学会活動も多方面にわたるものとなるでしょう。このために会員の希望も多くなり、満足するものとなるには敗政措置も確固としたものにする必要があります。会員があくまで主体となった学会を維持していけるように監事として私のできる限りのことをつくしたいと考えています。

田 中 貞 三 大, 13. 6. 9 昭, 19 養本卒

所信: 学会の正常な発展は基礎部門の追究と社会の要望に応じた応用部門の研究の両輪により期待できると思います。

これら、両部門の追求、特に若い人々の研究活動を援助できるような学会でありたいと思います。